

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

発言者	会 議 の 概 要
総務課長	<p>1 開会</p> <p>それでは、第5回小鹿野町政策審議会を開催させていただきます。</p> <p>本日の会議は黒澤委員より欠席連絡がありました。</p> <p>なお、本日の傍聴希望者は2名です。</p> <p>それでは、はじめに小松会長よりあいさつを申し上げます。</p>
小松会長	<p>2 あいさつ</p> <p>(会長あいさつ)</p>
総務課長	<p>続きまして、小鹿野町長 森真太郎よりあいさつを申し上げます。</p>
町長	<p>(町長あいさつ)</p>
総務課長	<p>次に議題に入りたいと思います。</p> <p>議長につきましては、小鹿野町政策審議会条例第6条の規定により、小松会長へお願いしたいと思います。</p> <p>それでは小松会長よろしくお願いいたします。</p>
小松会長	<p>3 議事</p> <p>それでは議長ということで議事を進行させていただきます。</p>
小松会長	<p>(1) 会議録署名委員の指名について</p> <p>それでは、議題(1)会議録署名委員の指名についてですが、こちらにつきましては、坂本委員、萩原委員を指名します。</p> <p>(はいの声あり)</p> <p>よろしく申し上げます。</p>
小松会長	<p>(2) 第4回会議録について</p> <p>次に、第4回会議録についてですが、開催通知と一緒に第4回会議録を送付しましたが、記載内容、誤字等がございましたら、ご指摘をお願いします。</p> <p>(意見なし)</p> <p>これで第4回会議録を確定します。</p>
小松会長	<p>(3) 提案についての意見交換</p> <p>次に、提案についての意見交換に移りたいと思います。</p> <p>分野別にそれぞれの提案について議論をお願いします。</p> <p>提案について、まず委員どうして議論をして、その後執行部側の考え方を聞きたいと思っています。</p> <p>議事を進めるうえでは、委員別提案と分野別提案に分けてありますが、分野別の方が議事を進めやすく、理解しやすいと思いますので、こちらで進めます。</p> <p>私は事前に資料をいただいておりますが、私の見解では大きく3つに分かれると思います。定住対策、観光、教育の3つに分かれると思います。</p> <p>まず各委員の提案について、簡単に補足説明等をお願いします。</p> <p>定住に関してのまちづくりでは、コンパクトシティ、町の企業化、森林環境税の活用、小鹿野用水にミニ発電設備、地域おこし協力隊等を等を利用した活性化、産婦人科の整</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	<p>備がまちづくりにはいつてくるかと思ひます。</p> <p>移動人口では、株式会社小鹿野ふるさと総合商社、工房村・工房宿、農業体験・農泊の推進が入ってくるかと思ひます。</p> <p>次に観光に分類されるのが、観光分野全般と移動人口とした、株式会社小鹿野ふるさと、工房村・工房宿、農業体験・農泊の推進が入ってくるのではないかと。</p> <p>このように考えられる。今日は第一にまちづくりについて話をしたいと思ひます。</p>
小松会長	<p>それでは、私の提案させていただきます、コンパクトシティ化によるまちづくりについてですが、私は「町の経営」ということで考え、運営していくことが良いのかということ、コンパクトシティの精神を取り入れていけば良いのではないかと。</p> <p>現在は大きく分けて長若、下小鹿野、小鹿野、倉尾、三田川、両神という大きなブロックがありますが、そのブロックを交通等でどう繋いでいくか、同時に大きな災害各地で発生しています。西日本豪雨、北海道地震等を見ると小鹿野町も似た地形であると思ひう。そうしたことから、コンパクトシティ化をして住民をある場所へ集めてくる。そうすれば災害に対応していけるようにするのも必要ではないかと。というふうに考えています。</p> <p>また、中心市街地が全く機能していませんので、定住をさせようとするときは難しい。力のある人は外に出られるが、力のない人は取り残される。町の経営という観点から、定住者、I・Uターン者を増やすためには、市街地の活性化と災害対応のため、集合住宅等を整備して定住者を増やしていくことが必要ではないかと。コンパクトシティの精神を経営に活かしていく町にしていく必要があるのではないかと。ということで提案した。</p>
小松会長	次に、小鹿野の街中にケーブルカーについて、説明をお願いします。
吉田委員	<p>まちづくりの分野に分けられていますが、観光にも繋がってくると思ひますが、世界の交通をみるとケーブルカーは古いシステムだと思ひます。なぜ提案したかという、町のモニュメントとして、観光アピールにも使えないか。ケーブルカーは排気ガスもでなくて、架線も必要ではない。車輪の音はするがエンジンを積んでいる訳でもなく、道路上に軌道を設置するので、見た目の変化もない。現状の交通を妨げることもない。</p> <p>役場から病院、病院からバイパス、それから原町へ行くルートを設置し、周遊ができればとても面白いのではないかと。実現化すれば色々な意味で注目されるのは間違いないと思ひう。あと、街中の活性化にも繋げていけるかも含めた提案です。</p>
山口委員	ケーブルカーより汽車を走らせては。ケーブルカーは必要があつて導入したものだと思うので、観光だけでは利用者がいないのではないかと。
吉田委員	私は、観光利用は二次的であります。町民の交通利用のためです。
山口委員	<p>現在の車社会において、利用者が見込めないのではないかと。</p> <p>観光目的に徹して導入した方が良いのではないかと。</p>
吉田委員	これからのケーブルカーは運転手はいらなくなると思ひますが、サービス面、安全面を考えるといるべきだと思ひます。
小松会長	運転手が必要となると、返済していくのは大変である。
宮林委員	現在の車社会で、ケーブルカーのメリットが住民にどれだけあるかが問題で、常に走らせるとすると経営的には困難であるので、ケーブルカーとドローンを組み合わせる情

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	<p>報網の整備とか、出荷の運搬利用に使用するか総合的に展開していけば良いと思うが、車社会とのバッティングありますので、観光を中心に平面的な考え方を整理していかなければと思います。</p>
小松会長	<p>それでは、そういったご提案を受けておきまして、今後検討していきたいと思います。</p> <p>次に、産業に入っていきたいと思います。</p> <p>町の企業化は私の提案ですので、説明させていただきます。</p>
小松会長	<p>これは町若しくは第三セクターが、思い切った政策をとって、税金がいらぬような町をつくっていこうというものです。人が住むにはそれなりの条件が整わないと住まない。</p> <p>住民の意見もありますが、町がやったら良いか、民間を入れた方がよいか分からないが、残土を受け入れて、森を埋めてメガソーラーと住宅団地を造り、住宅団地については無償で提供する。残土受入収入で土地代くらいは浮くと思われる。</p> <p>新しい企画ということで提案させていただきました。</p> <p>次に、今井委員お願いします。</p>
今井職務代理者	<p>皆さんご存知のとおり、来年から森林環境税ということで、市町村にお金が入ってきます。これをうまく使わないと小鹿野町も置いていかれてしまうと思う。</p> <p>秩父では広域で取り組みということで、秩父市を中心に動いています。その中で、山梨県の身延町に大きな会社が合板工場を建設する関係で、埼玉県のご案内で会合をもった。歴史的にみると、材木の取引があった時は町も繁栄していたようです。うまくすれば秩父の木材が動く傾向にありますので、木材協同組合、森林組合等で相談をしながら進めているところです。これから町に対しても協力をお願いしていきますので、その時はよろしくお願いします。</p> <p>業者にとっては、自分のところでも材木が欲しいので、本当に杉が売れるのが良いかどうか分かりません。それによって、材木の値段も上昇し、地域の活性化にはなると思う。秩父の木は伐採時期を過ぎてしまっていると思いますので、森林環境税を活用したり、販売の組織づくりの政策を今後進めていきたい。</p>
小松会長	<p>たいかに、山での収入はほとんどないと思う。人口減少の一因かもしれない。</p> <p>次に、宮林委員お願いします。</p>
宮林委員	<p>これから少子高齢化は日本全体の問題になりますので、ここだけ人口を増やそうとしてもなかなかうまくいかないと思う。そうしますと目標を1万5千人か2万人とした場合、それに合わせた産業は何かを見つけていくのが、新しい産業越しになってくる。</p> <p>町が儲けて、それを住民サービス・作業サービスを住民に配分していく仕組みを構築していく。さらに住民一人一人が社員感覚の位置付けをしていく。そのために、地区ごとにエンジン(核)をつくり不可価値を付けていく。川場村の例ですと水の駅をつくり、外国向けに売っていこうとする取り組みをしています。</p> <p>森林については、もやす山づくり、建材部品の山づくり、保全する山づくりといった仕組みを創りながらやっていけば良いのではないかと。</p> <p>まず最初に、全体の作業構造と、資源構造を把握しながら、何が出来るかを検討していき、首都圏域と連携しながら進めていければ良いと思います。提案しました。</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

小松会長	次に、工房村・工房宿について吉田委員お願いします。
吉田委員	<p>小鹿野の商店街で変化があるのを皆さんご存知だと思いますが、バンビサービス協同組合のポイントサービスを終了するというチラシが入りました。このままいくと商店街は疲弊していくのが明らかで、各商店主の方々が努力してやっていますが、個々の商店が町のイメージはそこから生まれてこないだろうと思います。</p> <p>この提案は、空き店舗対策にも繋がれば良いのではないかと思います。</p> <p>招致するには具体的なビジョンを提示することにより、案内し易くなると思います。</p> <p>商店街の意識改革をしていかななくてはいけない。ただし、財政的に厳しいのでソフト面での対応ができたらと思う。工房村・工房宿はその中の一環と捉えていただきたい。</p> <p>現状でも空き店舗が幾つかありますので、例えば竹あかりの工房とかが入っていただければ、きっかけづくりとかになるのではないかと。</p>
小松会長	ありがとうございました。続いて用水にミニ発電設備についてお願いします。
吉田委員	<p>私が住んでいる所は、用水の開水路が通っています。頭首工の整備をすることにより、水量を稼ぐことは容易にできるのではないかと。水量が増えればミニ発電の実験場ができないか。他県の例ですが水利権の関係で手続きが容易ではなかったとの事です。県内の町にも用水を利用した大規模な発電設備があります。今回提案したいのは、個人や大学生が風力・水力の発電の研究をするようになり、それを売りにできれば良いと思い提案しました。</p>
小松会長	次に、坂本委員お願いします。
坂本委員	<p>小鹿野町には知識を活かしたユニークな活動されている地域おこし協力隊の方がいるようです。そういった方々の良い意味での民間感覚の発想を十分活かして、まちづくりに貢献していただければ良いのではないかと。先程の吉田委員から話の出ました竹あかりなどは大変おもしろい事業です。そういった方々が将来的には起業に結びつけられるような後押しをしていければ、町としておもしろい事業ができてくのかと、期待感を持っています。</p>
小松会長	ありがとうございました。ここで町側からの意見をお願いします。
総合政策課長	<p>コンパクトシティのまちづくりにつてですが、ご指摘のとおり災害対策や中心市街地の活性化を考えるとコンパクトシティの検討もしていかななくてはならないと思います。</p> <p>山間地から市街地への住民移動はかなり困難でありますので、町としても同意を得ながら時間をかけてやっていかななくてはと思います。</p>
小松会長	<p>数年前に街中で火事になり、現在は空き地になっているが、何にも使われていないことを良く認識してもらいたい。どう町がインセンティブを与えていくかということだと思。次をお願いします。</p>
総合政策課長	<p>次に、吉田委員より提案のありました、ケーブルカーの関係ですが、町としては公共交通を検討していくうえで、国の実証実験等を招致していくよう進めていきたい。これからIT技術の革新で自動運転とか、国の制度改正等出てくると思いますが、現実的に出来るものを考えていきたい。</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

小松会長	次をお願いします。
産業振興課長	<p>町の企業化についてですが、メガソーラーの設置ということでお話をいただきましたが、我々には発想ができないところだというふうに感じました。また、埋め立てることによって、災害等の発生が考えられますので、地域住民の理解を得るのが困難であると思われま。計画が整えば進められるのではないかと考えられます。また、町で山林等を購入できれば、そこに公共残土を安全に埋め立てられればと考えています。そして町の収入に結びつけば面白いのではないかと考えます。</p> <p>次に森林環境税の関係ですが、1市4町で進めている部分もあります。町でも森林環境税を利用して木材利用して何か出来ないかとかPRを当然やっていかななくてはいけないと思っています。その中で歌舞伎小屋なども町の木材を利用して建てるのも可能ではないかと思っています。山が荒れていますので、その整備に環境税を使うのが一番の目的になっていると思いますので、町内の山林の間伐等に利用し材木を売却し、山主に還元できればと考えています。町にくる環境税はまだ確定していませんが、それだけでは足りませんので、都市部から何とか取り入れて、一緒に取り組んでいけるようにしたい。</p> <p>続きまして、株式会社小鹿野ふるさと総合商社についてですが、現在町では薬師の湯、農林産物直売所、国民宿舎両神荘などの観光施設がありますが、こちらを管理している小鹿野町振興公社というのがございます。振興公社を中心に産業団体を巻き込んでいければ面白いのではないかと思う。まず、観光資源の洗い出しから始めていければと思います。皆さんご存知かと思いますが、宇都宮のろまんちっく村、茨城県行方市のなめがたファーマーズヴィレッジとかが、大きく農業体験をやっていますので、先進地を参考させていただきながら、可能であれば小鹿野町振興公社が中心となり、何かできればと考えられます。</p> <p>続きまして、工房村・工房宿についてですが、こうした職人が小鹿野町では少ないと思いますが、長瀬町にはガラスの工房がありますので、小鹿野町にも腕の良い職人さん、和細工などをやる方もおりますので、そういった方を巻き込んで、イベント等を開催し、空き店舗に招致できればと考えております。</p> <p>続きまして、小鹿野用水にミニ発電設備についてですが、こちらは再生エネルギーの分野で注目を浴びていると思いますが、小鹿野用水につきましては平成25年に埼玉県において、発電が可能かどうかの調査がありました。水車や流水方式では採算が合わないとの結果がでております。そういった結果がありましたので、その後続いていないというのが現状であります。小鹿野用水は開渠になっておりまして、草刈の草等入ってきますので、維持管理等を考えますと水力発電には維持管理に注意を払わなくていけない。また、今後技術革新等で低コスト化や新たな発電方式の考案がありましたら、再度検討してまいりたいと思います。また、山の高低差を利用した河川での水力発電も考えていければと思います。</p> <p>次に、地域おこし協力隊を利用した活性化については、産業振興課の方では現在3名程おりますが、都市部の若者に小鹿野町に移住していただき、隊員として活動する</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	<p>中で、既存の地域資源を新たな活用方法や、地域住民が見落としていた新たな地域資源を発掘することで、企業・定住することを目指して活動しています。</p> <p>隊員の持つ新たな視点や発想、考え方を大切にして、協力隊員の定期的な意見交換の場を設け、そこから事業化できることを考え、隊員活動を応援してまいります。</p> <p>また、隊員が生き生きと活動することにより、町民も新たな刺激を受けて、町全体として活性化が図られるよう進めてまいります。</p>
総合政策課長	<p>地域おこし協力隊の全体の話になりますが、現在農業で3名、観光で2名、移住定住関連で1名の合わせて6名の方に隊員をお願いしています。</p> <p>町といたしましても、隊員の皆さんの都市圏での生活や民間での経験を基にした、新鮮な感覚や考え方を町の施策や事業の参考にさせていただくと共に、これらの隊員が起業し、将来にわたり定住できるよう支援してまいります。</p>
おもてなし課長	<p>地域おこし協力隊を利用した活性化についてですが、一個人や一団団で出来る事は限られています。現在、観光分野で2名の地域おこし協力隊が活動しておりますが、地元で育った我々にはない発想を持っており、その活動の幅をどんどん広げています。地域を変えるのは「よそ者」「若者」「ばか者」という言葉がありますが、まさにその通りと感じます。</p> <p>現在活動している地域おこし協力隊が、この小鹿野町に根を張って、ここで活動していける基盤を作ることが出来れば、小さな風穴かも知れませんが、これからの小鹿野町に変化をもたらすものではないかと思えます。</p>
小松会長	<p>産業のところまで出てきましたが、良いアイデアが出てきていると思う。宮林委員から出ている株式会社小鹿野ふるさと総合商社ですが、今やっている振興公社を一体化すれば良いのではないかと。現在の公社では議会の影響力があるので、新しくなっているところが見えない。逆に振興公社を提案のあった株式会社に移行すれば、事業で利益を生み回転させていければ良いのではないかと。現在の地域おこし協力隊も、その会社の柱に育てていき、株式会社を設立していけば審議会をやったかいがあると思う。ここで出てきた項目を会社で実施すれば良いのではないかと。</p>
町長	<p>私も会長のおっしゃった事を考えていた。振興公社の実態は人材派遣業であり、経営は各施設でやっていて、予算は議会に諮って町で取ってやっています。各施設の全体を取り仕切る人がいないのが現状です。会社を設立して町全体を取り仕切れるようなものを宮林委員の提案を受けて、創っていきたいと思った。</p>
小松会長	<p>このあと、観光事業についての項目もあるので、その会社で出来るのではないかと。</p>
町長	<p>役場では、議会との調整、予算とかの関係があるので実施しづらく、機動性に欠ける。株式会社でやればリスクも負うが、リターンもあると思うので、良いかと思っている。</p>
宮林委員	<p>ふるさと創生の中にはDMOというのがあるが、それが本来株式会社の立ち上げである。現状ではくっつけただけなので、中身が変わっていない。</p>
小松会長	<p>現在6名の地域おこし協力隊の方が来ていただいているので、その人たちが核になってセクター長とかでやっていただければ良いのではないかと。</p>
宮林委員	<p>先進地で商品のブランド化が進んでいる。森林環境税で私が心配しているのは、木材</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	<p>を切って出すことをやっているが、もう一度森を造り直すという取り組みをやっていないので、木は根切りをしていないと50年くらいで重くなり災害の基になってしまう。山づくり、林道づくりを全部一体的に整備すると良いのではないかと。そうすれば下流域からのお金も期待できるのではないかと。現在の山林は境界も分からず荒れているところも多いので、そういうところを町で全部預けてもらう契約を結べば、町で利用できる山林が広大になっていく。今やれば補助金も沢山使えると思う。2年後には観光税も出来るので、これもかなりの額になると思う。エネルギーについては、地元で循環して使えるようなものに集中した方が良い。10年後のエネルギーは炭素、水素とかを基に車に搭載エンジンで電気の発電が可能となると思うので、現在とは違う形態になるので、自前でメガソーラー持っていた方が有利だと思う。</p> <p>こういったこと総合商社の企画委員会で協議し、検証していけば町の新しいものが産業として生まれてくるのではないかと。やり方によっては、工房などはすごい需要があると思う。</p>
<p>塩田オブザーバー</p>	<p>先程、銀行側の意見ということで会長からお話がありましたので、公社ということで土台がある状態で、民間へ移行した場合に、新たに設備投資、新しい事業を起こす場合には、事業計画をきちんと提出していただきながら、地域金融機関としては資金の調達に協力し、一緒に成長するというスタンスなので、ただし土台の部分で色々な話がある中で、優先順位をしっかりとつけていただき、うまく回り出せば良いのではないかと。</p> <p>地域おこし協力隊の皆さんが、現在は各課に分かれて活動しているようですので、横の繋がりを持っているか。折角色々な活動しているのですから、その横の繋がりをつくり、意見を吸い上げるシステムを構築していけば、今より活性化する気がします。</p>
<p>小松会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>そうしますと現段階では、株式会社小鹿野ふるさと(仮称)が、今の振興公社を、併せて民間活力の生まれるような形に持っていったら良いのではないかと。</p> <p>もう一つ、コンパクトシティ化、町の企業化など色々な提案がありますが、これらはすぐにお金がまわらない。こちらこそ、公社、第三セクターを創り、長期的に投資していかなくてはと思う。それに対し、株式会社小鹿野ふるさと(仮称)などは、すぐにまわせる。</p> <p>もう一つ民間を活用するために会社を設立し、民間住宅を借りてI・Uターンを促すという事もあるが、実際には空き家が360軒あるとか聞いたが、それが実際使えるか、貸してもらえるかなどは、現状では把握できていないと思う。そういったことを考慮して、不動産関連の第三セクターを創り、まちづくりをやっていくというのはどうか。その辺を町側で検討していただきたい。</p> <p>傍聴者で意見のある方はおりますか。(なし)</p>
<p>小松会長</p>	<p>次に、教育の分野に入りたいと思います。今井委員説明をお願いします。</p>
<p>今井職務代理者</p>	<p>小鹿野高校の存続ということで提案させていただきましたが、人づくりの根幹は教育だと思いますので、ぜひ小鹿野高校は残してもらいたいというのが一つの意見です。</p> <p>高校での会議の中で、生徒から意見を伺った事があるが、山村留学制度により遠方から生徒が来ているが、実費で生徒(保護者)自身が負担をしている状況です。</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	<p>実際に留学している人が小鹿野高校の魅力を発信していただき、県内、県外から制度を利用して生徒が増やせていけばと思います。また、今は国際時代ですので外国からも生徒を受け入れて、英語教育とかに活かしていければいいのではないかと。</p> <p>ぜひ、小鹿野高校の魅力をアピールしていただきたい。今は野球を中心に山村留学生を募っているようですが、他の地元にも色々なスポーツで活躍された方もおりますので、他の競技でも夢を持てるような形にして、小鹿野高校を存続していただきたいと思いい提案させていただきました。</p>
小松会長	<p>ありがとうございました。次に坂本委員お願いします。</p>
坂本委員	<p>県の教育局で県立高校の統廃合の議論が進んでおります。具体的には平成41年度を目途に、現在の134校を10校から13校減らすという方向性が既に示されました。北部・秩父地域からは2校から3校を減らすという枠組みが決まりました。秩父地域には現在4校ありますが、どこかがターゲットになってしまうという危惧しています。森町長にも県の教育長へ小鹿野高校の存続という事で動いていただいておりますが、非常に厳しい状況があります。すでに小鹿野高校は野球部で山村留学という事で、特色のあるところをやられています、野球以外にも幅を広げていただき、他県の状況とか見ますと全国規模で生徒が集まっているという実績もありますので、小鹿野高校でも全国から人があつまるような魅力を創っていただき、活気のあるまちづくりにも貢献してくるのではないかと考えております。</p> <p>秩父地域振興センターにおいても、中小企業の人材確保ということで、色々な検討しております。秩父地域の若い方が進学、就職等で東京方面へ出て行き、なかなか戻ってきていただけない現状があるので、中小企業の多い地域は高校生の存在が非常に大きいので、小鹿野高校は非常に大きいと思いますので、魅力ある高校づくりは非常に大事であると思いました。</p>
小松会長	<p>ありがとうございました。次に、須崎委員お願いします。</p>
須崎委員	<p>教育の充実につきましては、先程からの小鹿野高校の存続に繋がりますが、教育が変化していて、詰め込みとかはAIに変わってきています。そういうものを使うような教育をプラスしたり、プログラミング、起業の仕方とか、学べないが面白そうな教育が可能でしたらおもしろいと思います。好奇心や探究心を持たせていければ良いかと思えます。今は山村留学生を預かっている立場ですが、毎月の費用が親には大きな負担だと思いますので、留学生を増やすため野球以外の部活の生徒を全国的に募集出来るように、ここでしか出来ないような特色のあるものが出来ればと思いました。</p>
小松会長	<p>ありがとうございました。次に、塩田オブザーバーお願いします。</p>
塩田オブザーバー	<p>これは前任の意見ですが、やはり特色のあるものを残すという意味での提案です。これからはIT社会といわれていますので、プログラミングが出来るような授業をする事で、将来オププログラムの開発者が小鹿野町出身とかであれば人気ができるという事もありますので、パソコンだけでなくスマホでのプログラムでも十分稼げますので、自由な発想で開発できます。作成者小鹿野高校の生徒とかであれば注目され来てみたくなるのではないかと。そうした事で特色を出していければという事で、意見を出させていただきます。</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	たと聞いています。
小松会長	ありがとうございました。これについて、町側の意見をお願いします。
教育長	<p>今4点提案がありました。教育の充実についてからお話をさせていただきます。</p> <p>教育は色々な場面で語られますが、今から15年前くらいに前に学力低下論争というのがありまして、国際学力比較調査の結果日本の学力がダウンしまして、相当大的な話題になり多方面から教育について論じられました。その時に私は県の教育局の教育課程のところを担当しておりまして、一番強く感じたのが教育・学力について定義、明確なものがなく論じられていました。激しい論戦でありましたが実質は不毛であると受け止めておりました。教育について論じるときに、「インプットの側面」何かを身に着ける、「アウトプットの側面」身に着けたものを活かす側面の二つがあります。一般的にはインプットの部分でどれだけのものを身につけられたか、という部分に目が行きがちなのですが、私自身は身に着けたものをどう活かしていくのかが一番重要なのではないかと、人間としてきちっと生活していかなくてはならないかというふうに考えています。アウトプットの対象は何かというと、これは社会であり人であると思っています。社会のため人のために何かができる人を育てるのが教育の意義ではないか、とういふうに思っています。</p> <p>町としてはそのために、さまざまな施策を行っていますが、現状としてインプットの部分がなかなか厳しい状況であり、いままで国や県の調査では芳しい結果が得られておりません。今は回復の兆しがあり、県の平均に近づいてきていますので、全学年が県平均を超えられるようインプットの部分を鍛え、併せてアウトプット育てていきたいというふうに考えています。教育の充実というのはそういう事だと受け止めている。そういう子供を町として育てる事が大切であると思っている。ある県では知事が下位100校の公表をするといった事をしていたが、好評は行わなかった。その時の知事が点数が最低という事は、その学校の教育が最低であるので教員の責任であると言われた。最近はそのことを校長の評価に反映していくというような状況もあります。インプットの結果は学校だけで結果を残す事はできませんので、家庭、地域、歴史的なものを含めた背景が大きな影響を持っています。単純に点数だけではだめですが、本当の学力を身に着けるのは学校だけではできないというふうに思っています。教育充実はもう一つ地域、家庭との本来の意味での理解、協力が成立した時に、その地域の教育は充実するのではないかとこのように考えている。家庭や地域に様々な働き掛け、協力をお願いしている。</p> <p>小鹿野高校の存続、特色ある高校づくりは同じ事になると思います。現実には秩父地区の子供の4割くらいは秩父管外の高校へ進んでいますので、残る子供は7割いません。その子供たちが4校に分散しますので、小鹿野高校も定員の半分くらいです。皆野高校では4分の1くらいになっている状況です。北部地区で3校減らせという方針が出ましたら、その2校は真っ先の対象校にならざるを得ない状況です。子供数からいきますと秩父には2校あれば高校は足りませんが、小鹿野高校は埼玉県の西端に位置しています。現在では本当に通えないという子供はなかなかありませんが、通学の厳しい子供は沢山います。県の高校教育圏を狭めないように望んでいますので、町としても存続への働き掛けをしっかりとしていきたい。働き掛けとしては、普通の高校として</p>

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	<p>残すのでは意味がないので、スペシャルな学校にしていかなければ残す意味もありません。そうしていかなければ残しても5年後、10年後には絞り込まれてしまいます。</p> <p>町としては小鹿野高校を特別な学校につくり変えていってもらいように働き掛けていきたい。特別な学校というのは、まず全国募集が条件で、全国から子供を集めるためには、そこに行けば他では経験できない事が経験できる、といった学習環境を整える事が必要である。私どもが勝手に思っているのが、スポーツと学力であり、スポーツは野球を導入しましたが、これは非常に厳しい。ハードルが高すぎたので、ハードルを低くした方が早く結果が出るのではないかと思う。例えば相撲、クライミングなどであれば、素晴らしい選手を育てる事ができるかもしれません。いくつか種目を特定し県から優秀な指導者を派遣していただくというような事ができると思う。学習面では小鹿野の地域の特色を活かした事が幾つか出来るのではないかと思う。私が思っているのはフィールドワークの専門家を早く養成するような取り組みができないか。例えば歴史、地学、生物、地学などがありますが、フィールドワークの専門家を早く養成するようなコースを設定する。そして、地域の研究者や大学の研究室とうまく連携をとって、プロと一緒にフィールドワークに取り組んでいけるような、時間を確保できる教育課程を組める学校にしていくような学校にしていく。これが可能かどうかは分かりませんが、これは県教育委員会が決めていただく事ですので、アプローチはしていきたいと思っています。</p> <p>町としては、それを支える条件を支援する。例えば、全国から子供たちを呼ぶのであれば生活するための施設等に出来る範囲の協力をしていくような事がある。地域の様々な関係者と連携を図ることが必要であると考えている。</p> <p>今後県としても、そういう学校を設置するのはリスクもありますので、どういふ対応がでてくるか分かりませんが、そういう学校にしなければ残す意味もなくなってくるのではないか。高校生の年代がこの町で生活するには意味がある。小鹿野高校がなくなれば、高校年代の子供はここで生活しなくなる。一番多感な時代の子供たちが地域に触れ合わなくなると地域の衰退にも繋がるのではないかと思う。</p> <p>最後のIT技術の部分ですが、これは今後一つの指標であると思っている。プログラミング教育が32年度から全面実施されますので、実施に向けて研修を行ったり、準備を進めているところです。現状ではすぐに対応するのは難しい状況です。当然視野に入れていかなくてはと思います。</p>
小松会長	ありがとうございます。
町長	<p>宮林委員から提案のありました、小鹿野ふるさと(総合商社)仮称ですが、設立に向けて調査・研修をしてみたいと思います。町でも振興公社を持っておりますので、それを衣替えしていくのが良いか、別に設立していくのかまだ決まりませんが、株式会社組織は町の経済を牽引するには非常に大事だと思いますので、大至急検討し次回会議で骨格でも話せればと思います。</p> <p>(ここで町長退席)</p>
小松会長	小鹿野高校がなくなると町のランドマークの一つがなくなるので、大変なショックである。

小鹿野町政策審議会 会議録 (第5回)

	宮本委員どうぞ。
宮本委員	今中学校の相撲の大会を秩父市民体育館で行っていますが、以前ミュージックパークの繁盛博でちびっこ相撲を行なった。その時常設の土俵をお願いしたが、設置を認められなかった。ミュージックパークに常設の土俵が出来れば、中学校の大会やワンパク相撲、大相撲の合宿を呼ぶのも可能です。ミュージックパークに常設の土俵を造るのは可能ですか。一度掛け合った時は常設では無理なので、仮設で造り壊してしまいました。
教育長	施設としては、町が勝手に出来ない。
宮本委員	いきなり高校で相撲部を作っても入部者はいないと思う。ニューズパークに土俵を造り小さい時から相撲と携わっていれば、続けてもらえると思う。
教育長	ミュージックパークでは私の藩中ではなくなります。町で造れというのであれば。
総務課長	確認をしないとイケないと思いますが、公園内ですので常設だと時間の時間がないという事だったのではないかと思います。管理は県土整備事務所でやっていると思いますので確認したいと思います。
宮本委員	中学校の大会を見に行きますが、狭いところでやっているの、準備運動出来な状態でやっているの、もう少し良い環境でやらせたいと思いました。
副町長	ミュージックパークはエリアとすると、プールまでが小鹿野です。全体が都市公園なので県土整備事務所で管理していると思います。例えば宮本委員のアイデアを小鹿野町運動公園に造るのであれば、町が設置し貸出し可能かと思えます。若しくは旧長若中のグラウンドであれば町で設置できます。
宮本委員	教育の部分からお願いした方が一番とお易いかと思えます。
教育長	今授業で、相撲もありますあまり取り組んでいない。柔道か剣道になっています。学校に土俵の設置という要望は皆無に近い状況ですので、運動公園に設置という事であれば考えられます。
小松会長	山口委員が歌舞伎公演でロシアに行ってきたので、報告をお願いします。
山口委員	(ロシア公演の報告)
小松会長	本日は以上で議事を終了します。事務局で次回の予定をお願いします。
事務局	次回は10月16日という事をお願いします。
小松会長	次回は宮本委員の紹介で講演を予定します。よろしくをお願いします。 以上で議長の職を降ろさせていただきます。
総務課長	それでは、その他のところで事務局より2点ご報告させていただきます。 1点目は今役場庁舎整備についての説明会を実施しております。内容は資料のとおりです。説明会後意見等を検討し、審議会のご意見等も伺い進めていきたいと思えますもう1点は両神の神楽館がロッククライミングで有名な方が興味を示し、そこを使いたいというお話が来ております。まだ具体的には進んでいませんが、ご承知ください。
総務課長	長時間にわたりまして、慎重ご審議いただきまして大変ありがとうございました。 以上で本日の会議を終了させていただきます。大変ご苦勞様でした。